

思い出の作品

(感想画・読書感想文)





「ハリーポッターと秘密の部屋」を読んで

3年8組 高 良 綾 乃

この本はハリーという特別の力をもった魔法使いの男の子の話で、この男の子が生まれたばかりの時にヴォルデモードという悪に両親が殺され、ハリーは生き残り、その男が再びハリーの前に日記から現れて秘密の部屋で戦う話です。ハリーとヴォルデモードをどう表現するか苦労しました。

第45回西日本読書感想画コンクール佳作
第38回全沖縄青少年読書感想画コンクール優秀賞



「わたしたちを忘れないで」を読んで

3年8組 高 良 若 菜

この本はドイツ平和村の様子が筆者のボランティア体験を通して書かれています。ドイツ平和村では戦争で心も体も傷つけられた子供達が治療、リハビリをしています。

平和村にいる子供達は傷つきながらも希望を持って生きている子供がたくさんいました。それに感動し、それを絵に表現しました。

第45回西日本読書感想画コンクール佳作
第38回全沖縄青少年読書感想画コンクール優秀賞



「ぼくらはみんな生きている」を読んで

3年3組 徳田 津奈子

私がこの本を読んで表現したかったことは、この本の作者は、18歳の時交通事故で人間としての動作や記憶、本能すべてを忘れてしまい、赤ん坊のようになってしまいました。けれど、作者本人の並々ならぬ努力で大阪芸術大学を卒業し、現在では草木染作家として活躍しています。そんな作者の記憶を失ってから新しい人生を歩むまでの自分との戦いや記憶との葛藤を表現しようと思いました。



「だからあなたも生きぬいて」を読んで

3年1組 宮城翔子

この物語は大平光代さんの実話です。小学生のときにひどいじめを受け自殺しようとさえします。しかし、その後の苦しい時期をのりこえ中卒で司法試験に合格、弁護士になります。

この絵で苦しんだところは背景です。何度も色をかさねました。大平さんの絶望と希望を絵で表現しました。

2002年度 全沖縄青少年読書感想文コンクール優良

「人間失格」を読んで

3年7組 上原さやか

「恥の多い生涯を送ってきました。」このあまりにも有名でありにも重すぎる言葉を目にし、私は寒気を覚えた。この本の中を読み進めようかどうかためらったほどだ。私はこの本を最後まで読むことが出来るか、きちんと理解できるか不安になりながらも、この先を読みたいという、もう一人の自分に勝てず「人間失格」を読み出した。

主人公、葉蔵は人間の生活というものは見当つかないといっている。駐車場のブリッジの役割を知らず、空腹という事を知らず、めしを食べなければ死ぬという言葉に脅迫さえ感じ、人間の営みというものがいまだに何も分かっていない。私には葉蔵が、自分は人間が分からない、自分は人間であるのかと訴えているように感じられた。自分の中にある真を追求するあまり、自分と人間との食い違いを感じ、発狂しかけるほど不安になる。不安になればなるほど、また人間が分からなくなり、隣人と会話さえ出来ない。そんな自分と人間との間で葛藤し、恐怖し、もがき苦しんでいる様子が赤裸々に書かれていて私も辛くなった。この本は今までどれだけの人にこんな思いをさせたのだろう。どれだけの人が葉蔵のことを哀れに思ったのだろう。そんなことを考えてしまうほど、葉蔵の自己批判は厳しいものであった。私の日常生活の中に葉蔵のような自己批判は存在しない。多少の自問自答はするが、そこまで自分を追いつめたことはないだろう。ましてや、自分は人間なのだろうかと思ったことなどあるはずがない。だから葉蔵を全く理解できなかった。そんなに追いつめなくてもいいのではないか、もっと気楽に考えたほうが人生は何倍も楽しくなるはずなのに。何事も前向きに考える私にとって、葉蔵の極度のマイナス思考には腹がたった。

葉蔵は人間を極度に恐れているが、どうしても人間を思い切ることができなかった。そこで葉蔵は道化を考えだした。恐怖を感じている内心とはうらはらに、葉蔵は絶えず笑顔を作り、まわりを笑わせ、みんなの人気者になっていった。私でもそうしたかもしれない。誰かを恐れていたら、その人の機嫌を損ねてはいけなく考える。何でもいいから笑わせておけばいいのだと悟り、その遠く実行する。自分にも心当たりのあることなので葉蔵には共感した。少なくとも、その笑顔がどれだけ辛いかわかりはわかっているつもりだった。しかし葉蔵はそんな自分にさえお道化で人間をあざむいていると厳しい目を向けた。恐怖から逃れる方法を見つけても、またそんな自分を自己批判し、新しい恐怖がやってくる。葉蔵はこの悪循環を自分で作り出していた。まるで自分の首を自分でしめているかのように。そして最終的には睡眠薬中毒にまでなり、自分に対して「人間失格。」と言っている。なぜそうなるのか、どこから葉蔵の歯車が狂いだしたのか、考えても私にはわからなかった。だけど自殺という方法で自らの人生の幕を閉じた葉蔵の心理を少しでも理解したくて、私は時々本を閉じ、考えたりした。葉蔵は現実から逃れるために自殺したのではなく、自分に罪をあてたのではないだろうか。世の中の人々は、おそらくほとんどがあいまいに生きている。葉蔵のように一つ一つ自分を自己批判しているだろうか。まあいいんじゃないか、こんなこともあるさと私は前向きに考える。しかし、葉蔵はそんなふうには絶対に考えないと思う。妥協してしまう自分にまた悩む。葉蔵が背負っていたものは人間の限界を超えたものだと思う。私が葉蔵の状態でも自殺したであろう。しかしそれはただ現実から逃げるためであって葉蔵の自殺とは違う。葉蔵は最後まで自己批判を続けた結果自らに罰を与えることを選んだのだ。

「人間失格」作者、太宰治は作品完成の一ヶ月後、自殺をしている。葉蔵が自分で自分の首をし

め、苦しんだように彼もまたこのように苦しんでいたのだろう。この作品を読み、葉蔵を通して太宰治、本人を見ている気にさえなった。だからこそ、よりリアルに、より強く私の心を揺さぶったのだろう。真実を問いつけながら死んでいく意味。太宰治はそのような事も訴えていたのではないだろうか。しかし、私たちは、あいまいであっても生きている。人間としてそのぐらいの余裕がなければ生きていけないと思う。そして私たちは、一人一人生きている意味を持っている。その意味を考えながら、探しながら私たちは成長していく。だから、たとえどんな理由があっても自ら命を絶ってはいけない。私はいきていく。今日も精一杯生きていく。葉蔵が見つけれなかった生きていく意味を考えながら。そして自分の人生を振り返った時に、「人間、失格。」という悲しいものではなく、素直に生きていてよかったと思えるように一秒一秒大切に生きていきたい。



2003年「税に関する高校生の作文」沖縄税務署長賞

税金の必要性

3年7組 大城早矢佳

「税金」以前の私は、その言葉を聞いて嫌なイメージしかわきませんでした。なぜなら消費税・所得税とお金を払わないといけないと思うとその分損した感じになるからです。今、私は働いていないので税金は払っていませんが、将来仕事に就いてから税金を払うと思うとすごく嫌な感じでした。

しかし、学校で税務署で働く方の話を聞き税金に対して以前とは違う考え方をもちようになりました。私は今まで税金の在り方、税金が何に使われているのかという根本的なことを認識していませんでした。そのため、税金に対して嫌なイメージしかわかなかったのです。税金が、自分の身の周りの生活の一部を支えている事にやっと気がつきました。例えば、学校です。小中高と合わせて12年も勉強し続けられているのも、税金のおかげです。今私は高校生で年間教育費およそ九十万円もが税金でまかなわれています。そんなにお金がかかっていると思ってもみません。勉強嫌いな私ですが、その事を知り勉強ができる環境が十分にある中で一生懸命勉強することは大事だと考えられるようになりました。そう思えたのも、テレビでアフガニスタンの子どもたちを見たというのもあったからだと思います。アフガニスタンの子どもたちは、「勉強をするのがとても好きだ」と言っていました。

戦争を体験し裕福な生活ができなくても、勉強を楽しみに学校に行っている子がほとんどです。でも中には、勉強したくても学校へいけない子どもたちもいます。家族のために働く子どもたちです。日本は、法律により教育を受ける義務があります。これは、義務と言うよりも勉強ができるという幸せに恵まれているものなんだとアフガニスタンの子どもたちに教えてもらいました。

そして、何よりも税金というものがあってこそ勉強ができる事を知りました。税金の大切さがよく分かりました。国民の生活を快適でゆとりあるものにするためにあるものなんだと今では税金を払う事に納得しています。

私は、税金について他にも考えさせられた事があります。それは、環境問題です。私たちが日頃出しているゴミを処理するため二兆八三〇九億円もの税金が使われています。ゴミを燃やすために有害なガスが発生し、大気汚染などの問題が発生しています。自分たちの手で地球を汚しているのです。環境問題を解消するために、税金の比重が増えています。でもこの税金は私たち一人一人の努力によって使わないで済むのです。ゴミを減らす事は決してできない事ではないと思います。

税金の必要性は私たちの身の周りの生活を快適にするためですが、でもその税金が正しい道で使われなくては、せっかく働いて払った税金がすごくもったいないです。環境問題がなければ、使わずに済む税金になるのです。本当に必要な事に税金が使われなくてはいけないと思います。それは、私たち一人一人にかかっている事なのです。

「幸福な死」を読んで

3年8組 仲宗根聖子

「幸福」とはなんだろうか。

「幸福」とはいかにして達成されるのか。

物質的且つ精神的に、つかの間満たされたかと思うと、次の瞬間にはさらに一段階上のものを欲しがるのが人間の心理というものではないのか。他者と己とを比較して生産されるこれらの欲求の中でも、「幸せになりたい」というテーマは、ありとあらゆる人間の中に存在する永遠普遍のものであり、人間の飽くなき欲望の元では、決して満たされる事の無いものの一つではあるだろう。

作品中に登場する、富豪のザグルーとかつて貧困の中にいた青年メルソー。両者に共通するものは、「幸福」への強い執着、そしてそれを得られない苦悩からくる絶望。

ザグルーは、若い頃に成功し富を得た「勝ち組」に区別される人物だが、事故という不測の事態で両足を失った。

こうして彼の人生における最大のテーマである「幸福を得る」ことは永遠に出来なくなり、ザグルーは自己を正当化出来ずにいる。

幼い頃に、母子家庭とそれに伴う貧困を経験した青年メルソーは、「貧しさ」という自分ではどうすることも出来ない状態から脱却したいとがき、けれど脱却できないそれを纏ったままに残りの人生を送るしかない、ということに「絶望」していた。

メルソーはザグルーの屋敷を訪れた帰りに、隣人である樽職人カルドナの不幸を目の当たりにし、そして「海の潮のように、かれの心に押し寄せてくる（本文より）」深い絶望感と孤独、不幸を振り払うかのように、翌日再びザグゾーの屋敷を訪れ、彼を殺害する。

メルソーはザグゾーを殺害したことによって金を得るが、同時に、犯した罪の代償も受け取る事になる。彼はプラハの街で、その罪の重さに気づく。あれほど欲した幸福への意志は日々弱まっていき、やがてメルソーはプラハを出て北へと向かう。

メルソーは汽車の中で荒涼とした風景を見、そこで初めて、抑圧していた感情を解き放つ。

やがて国に帰ったメルソーは、三人の女性と生活を共にし、そして彼は彼の愛した女性に見守れながら死を得る。

メルソーの「死」の瞬間は細かく描写され、且つ柔らかな印象を与える死であるが、メルソーの旅の途中で出てくるヨーロッパの大地や空は、必ずしも美しいというわけではない。

嵐が近づき荒れる空模様や、広大な湿原、糸杉などはそれ自体がヨーロッパでは「死」や死に対する悲嘆の象徴であり、罪の意識や不安を抱えるメルソーの心理状態と共鳴しているかのようである。

ザグルーはメルソーに「お金が無くてはだれも幸福になれない」と説いた。

それはザグルー自身の人生哲学のようなものだったかもしれないが、少なくともメルソーにとって、成功者のザグゾーの価値観や考えに触れた事は、彼に希望を持たせるような事だったに違いない。

メルソーはザグルーに感化され「幸福」への探求を始めたのか、それとも自分自身の強い思いに突き動かされたのか。旅の道中で彼は、二つの感情の間を行き来し、その度に自己の在り方を迫られ、肯定と否定を繰り返してきたように思う。

メルソーの人生が「幸福」だったかと問われれば、私には答えることが出来ない。

罪を犯してでも「幸福」という不確実な事象を手に入れたいという、その衝動の強さ。

一方で殺人という大罪を犯し、一方で「幸福」を追求する。一見一致しない行動を取っているかのようにも見えるが、けれども彼は、自分の人生を主体的に生き抜く事が出来たのではないか。

自分の持つ、限りなく幻想に近い理想と現実の中で激しく揺れ動く感情や、罪を犯した事によって生じた罪悪感など、様々な枷に繋がれてのことだったに違いない。

けれどもメルソーの死に様というものは、それらを帳消しにして、幸福だったと言えるのではないか。私はそう思う。

一般世論という多数派の意見ばかりが取り上げられている現代社会の中では、右に倣えと画一的な価値観を詰め込まれ、自己の確立すらままならないまま社会人となった大人の幼稚な行動ばかりが目立つ。

私はそんな大人になりたくない。

私はメルソーのようなドラマティックな人生は望まないが、主体的に生きたメルソーのように自分の意志や考えを尊重した生き方をしたい。

それこそが最大の幸福であり、最上の生き方のように、私は思えるのである。より強く私の心を揺さぶったのだろう。真実を問い続けながら死んでいく意味。太宰治はそのような事も訴えていたのではないだろうか。しかし、私たちは、あいまいであっても生きている。人間としてそのぐらいの余裕がなければ生きていけないと思う。そして私たちは、一人一人生きている意味を持っている。その意味を考えながら、探しながら私たちは成長していく。だから、たとえどんな理由があっても自ら命を絶ってはいけない。私はいきていく。今日も精一杯生きていく。葉蔵が見つけれなかった生きていく意味を考えながら。そして自分の人生を振り返った時に、「人間、失格。」という悲しいものではなく、素直に生きていてよかったと思えるように一秒一秒大切に生きていきたい。